

支所だより

各総合支所管内での身近な出来事や話題などを毎月お知らせするコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

「父上様 芙美子」

《林芙美子の石碑》

「花の命は短くて苦しきことのみ多かりき」の名句で知られる林芙美子。昭和を代表する女流作家で、「私は宿命的な放浪者である。私は古里を持たない…」との出だして始まる「放浪記」は、1930年に単行本として出版され当時のベストセラーとなり、「でんぐり返り」がある森光子の舞台作品としても有名です。

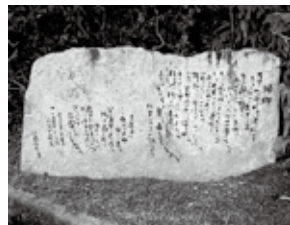
そんな林芙美子の実の父である宮田麻太郎は新町（吉岡地区）の出身なのです。麻太郎の生家は、今は取り壊されており当時の様子をうかがうことはできませんが、跡地に標柱が建てられています。

また、芙美子が祖父（麻太郎の父）の葬儀に参列するために一度だけこの地を訪れました。その時に生家から南へ300mほど行った所にある佐々久山という小高い丘に登つ

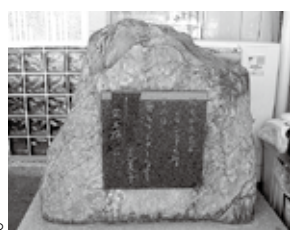
て、壬生川の町を見下ろした際に得たとされる詩「帰郷」の石碑が同所に建てられています。

J R 壬生川駅前には、大正13年12月に芙美子が父の麻太郎にあてた手紙の一文節を記した石碑があり、この手紙を通して親子の絆を感じていただくきっかけになるのではないのでしょうか。

芙美子が父に宛てた手紙やこの地を訪れたときに得たとされる詩の石碑、父親の生家など、彼女の心の軌跡を追うことができるかもしれません。



「帰郷」の石碑



J R 壬生川駅前の石碑

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

使える、飾れる、楽しめる！

《丹原高齢者木工クラブ リニューアル》

木材の加工を通じて高齢者が生きがいのある活動をし、地域社会への貢献につなげようと、昭和57年にスタートした老人クラブ木工部が再結成され、成果を上げています。

西条市丹原農村環境改善センター内の木工室に設置された当初は、旧丹原町老人クラブ連合会を主体に、最盛期には約100名の会員を数えたものの、時代の推移とともに活動は低迷。昨年、復活を望む声に会員が検討会を重ねて会則等を整備し、18名の新メンバーで活動を再開しました。

作品は、自分が楽しむものや、公共の場で使うもの、地域の催事場で販売するものなどさまざま。安全面への配慮から、木工加工経験者の方に作業や安全の指導をお願いしました。機械の操作は危険と隣り合わせであるだけに、先

生も生徒も真剣そのもので緊迫感さえ感じられます。

昨年12月に丹原総合支所で行われた産業まつりには活動再開後初の作品がお目見え。縁台、椅子、まな板、鍋敷き、茶托などのほか彫刻を施した飾り物まで見事な作品が並び、あっという間に完売する盛況ぶりでした。

「自分の手で何かを作り出す喜びがたまらんですよ」作業の間にお互いの出来栄を批評し合うのも楽しみのひとつとか。これからも良い作品を作りながら、充実した時間を過ごしていただきたいものです。

活動は、毎週月・水・金曜日に行っています。お問い合わせは丹原地区老人クラブまで。



木工作業の様子

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

20年の歴史ある小松の春の風物詩 《椿一輪展》

早春の香り漂う椿ハウスで、2月28日と3月1日に椿一輪展が開催されました。小松地区老人クラブ連合会が20年間開催してきた同展は、21年目を迎える今年から愛媛小松つばき会の主催となりました。

椿ハウスには、篤山椿や白羽衣など小松の銘椿や県内外の色とりどりの椿が咲き誇るなか、椿愛好家が丹精込めて育てた椿の一輪挿しが展示され、多くの人でにぎわいました。（38ページに関連記事有り）

椿の苗木即売も行われ、小松特有の椿をはじめとした銘椿の苗木を求める愛好家や、これから育ててみたいという人々が、どんな花が咲くか聞いたり、ハウスの中で何色の花が確認したりしながら、苗木を購入していました。また、育て方が分からない人や、挿し木、接ぎ木の方法など、小

松つばき会の方が指導してくれ、椿愛好家の交流の場にもなっていました。

ほかにも、椿交流館では切手やハガキ、全国椿サミットのパンフレットなど、椿に関するグッズを展示したり、石鎚山ハイウェイオアシス館では椿を主役にさまざまな花をあわせた、椿生け花展も開催されました。

椿一輪展は終わりましたが、椿ハウスや近藤篤山旧邸、小松中央公園などでは、遅咲きの椿が楽しめる場所もあります。ぜひお越しください。



苗木即売



つばきブローチ配布